

平成23年度

学習指導計画(シラバス)

地理歴史・公民科

岩手県立盛岡第一高等学校

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
地歴	世界史A	2年普通科理系/理数科 2単位	理系選択/理数科必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>・近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p>		<p>・教科書 現代の世界史 (山川出版社) ・資料集 グローバルワイド最新世界史図表 (第一学習社)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 I-1章 諸地域の特質 2章 東西世界の交流 II-1章 大航海時代とヨーロッパ 2章 アジア諸国の繁栄</p> <p>【前期末】 I-2章 アジア諸国の繁栄 II-3章 拡大する近世ヨーロッパ 4章 近代の欧米社会</p> <p>【後期中間】 II-5章 ヨーロッパの進出とアジア 6章 帝国主義の時代 III-1章 20世紀の特質</p> <p>【学年末】 III-2章 二つの世界大戦 3章 東西2陣営の対立 4章 20世紀から21世紀へ</p>		<p>・自然環境、生活、宗教などに着目させながら、東アジア、南アジア、西アジア、ヨーロッパに形成された諸文明の特質を理解させる。</p> <p>・大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアの接触と交流を通して、16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を把握させる。</p> <p>・産業革命と資本主義の確立、フランス革命とアメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成を理解させる。</p> <p>・帝国主義国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。</p> <p>・第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立と日本の動向、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・定期考査得点 →各期の内容について、共通部分と授業担当者の指示による部分があるので、詳細については個々に説明する。</p> <p>・出席、課題提出状況および授業態度等。</p>		<p>・授業に集中し、ワークノートを有効に使用する。</p> <p>・教科書をよく読み、歴史の流れを把握する。 →さらに、世界史上で、大きな国の変遷、歴史を変えた人物については、文学・芸術などに大きな影響を与えているので、外国語、国語などの教科内容にも関わる。資料集の活用など、世界史の時間だけでなく、幅広く関心を向けること。</p> <p>・現代社会で既習した内容および日本史・地理との関連に注目し、日本や世界の歴史・地域形成過程に目を向ける。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
地歴	世界史B	2年普通科 文系4単位/理系3単位	文系必修/理系選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>・世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p>		<p>・教科書 詳説世界史 改訂版(山川出版社) ・資料集 グローバルワイド最新世界史図表(第一学習社)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 序章 先史の時代 第1章 オリエンと地中海世界 第2章 アジア・アメリカの古代文明 第3章 東アジア世界の形成と発展</p> <p>【前期末】 第3章 東アジア世界の形成と発展 第4章 内陸アジア世界の変遷 第5章 イスラーム世界の形成と発展</p> <p>【後期中間】 第5章 イスラーム世界の形成と発展 第6章 ヨーロッパ世界の形成と発展 第7章 諸地域世界の交流</p> <p>【学年末】 第8章 アジア諸地域の繁栄 第9章 近代ヨーロッパの成立 第10章以降第17章まで、近現代世界の概観</p>		<p>・西アジアと地中海一帯の地理的特質、オリエン文明、イラン人の活動、ギリシア・ローマ文化に触れ、西アジア世界と地中海世界の形成過程を把握させる。 ・東アジアと内陸アジアの地理的特質、中華文明の起源と秦・漢帝国、遊牧国家の動向、唐帝国と東アジア諸民族の活動に触れ、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程を把握させる。</p> <p>・アラブ人とイスラーム帝国の発展、トルコ系民族の活動、アフリカ・南アジアのイスラーム文化に触れ、イスラーム世界の形成と拡大の過程を把握させる。</p> <p>・ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、西ヨーロッパの封建社会の成立と変動に触れ、キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程を理解させる。</p> <p>・西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とその中での日本の位置づけを理解させる。 ・科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21世紀の世界について展望させる。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・定期考査得点 ・小テスト ・課題提出状況</p>		<p>・授業プリントをよく整理し、歴史の流れを捕らえ、因果関係や特徴を把握する。 ・地図を活用し、歴史の展開を具体的にイメージできるようにする。 ・いつの時代の話なのか、常に年代を意識することを心がける。 ・教科書のみならず資料集を積極的に利用し、歴史の事象を多角的に捕らえるようにする。 ・世界史で学習した知識をもとに、現代世界で起きている諸問題に関連させられる視点を持つようにする。 ・世界の歴史と日本の歴史の関連を理解しながら、日本の位置づけを意識する。 ・授業に集中し、単なる記憶ではなく歴史の事象を理解するように努める。 ・問題演習に効率的に取り組み、知識の定着を單元ごとに確認する。 ・小テストごとに復習する習慣を身につける。</p>	

教科名	科目名	開講期（単位数）	必選別
地理歴史	世界史B	3年普通科（文系4単位・理系3単位）	選 択
到達目標（ねらい）		使用教科書・教材	
<p>・世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。</p>		<p>・教科書 詳説世界史B 改訂版（山川出版社） ・資料集 グローバルワイド 最新世界史図表（第一学習社）</p>	
学習内容（学習時期）		学習到達目標（ねらい）	
<p>【前期中間】 第8章 アジア諸地域の繁栄 第9章 近代ヨーロッパの成立 大航海時代・ルネサンス・宗教改革 第10章 ヨーロッパ主権国家体制の成立 絶対主義諸国家・ヨーロッパの海外進出 第11章 欧米における近代社会の成長 産業革命・アメリカ独立・フランス革命 【前期末】 第12章 欧米における近代国民国家の発展 ヨーロッパ再編・アメリカ合衆国の発展 第13章 アジア諸地域の動揺 オスマン帝国の動揺・アジアの植民地化 第14章 帝国主義とアジアの民族運動 世界分割・アジア諸国の改革と民族運動 【後期中間】 第15章 二つの世界大戦 第一次世界大戦・ナショナリズムの高揚 世界恐慌とファシズム・第二次世界大戦 第16章 冷戦と第三世界の成立 冷戦構造・第三世界の自立と危機 第17章 現代の世界 多極化・社会主義世界の解体 【学年末】 マーク演習（センター試験対策） 論述演習（国公立大学二次対策）</p>		<p>・西・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮等との関係を扱い、16世紀から18世紀までのアジア諸地域の特質とその中で日本の位置づけを理解させる。 ・近代ヨーロッパの成立と、主権国家体制、大西洋貿易を扱い、16世紀から18世紀にかけてのヨーロッパ世界の特質と他地域との関係を理解する。 ・産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立などのヨーロッパ・アメリカの経済的・政治的変革について学ぶ。 ・18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパ・アメリカにおける産業社会と国民国家の形成過程を理解する。 ・ヨーロッパ諸国のアジア進出と、アジア諸国の動揺と改革を扱い、19世紀から20世紀にかけてのアジアとヨーロッパの関係および世界の支配・従属関係を伴う一体化について学ぶ。 ・二つの世界大戦、大衆社会の出現と全体主義、世界恐慌と資本主義の変容、アジアの民族運動などを扱い、20世紀前半の世界の動向と社会の特質を理解する。 ・冷戦期の世界の動向について学んだ後、冷戦の終結と地球社会の到来、地域統合の進展などを通じて、現代社会の動向を理解する。 ・演習を通じて、大学受験に必要な知識を学ぶ。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・年3回の各定期考査得点 ・小テスト ・課題提出状況</p>		<p>・授業プリントを配布し、歴史の流れを捕らえ、因果関係や特徴を把握する。地図を活用し、歴史の展開を具体的にイメージできるようにする。 ・教科書のみならず資料集を積極的に利用し、歴史の事象を多角的に捕らえるようにする。 ・世界史で得た知識をもとに、現代世界で起きている諸問題に関連させられる視点を持つようにする。 ・世界の歴史と日本の歴史の関連を理解しながら、日本の位置づけを意識する。 ・授業に集中し、単なる記憶ではなく歴史の事象を理解するように努める。 ・授業の合間に問題演習を取り入れ、知識の定着を單元ごとに確認する。 ・小テストごとに復習する習慣を身につける。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
地歴	日本史A	2年普通科・理系(2単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
近現代史の展開について、『新学習指導要領』を踏まえ、世界史や地理などの知見を援用しながら、今日の諸課題に着目した考察を行い、歴史的思考力を培うとともに、国際社会を主体的に生きる日本人としての資質を養う。		○教科書：現代の日本(山川出版社) ○副教材：現代の日本史ノート(山川出版社)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
【前期中間】 序章 近代以前の日本 1 近代国家のできるまで 2 近世の国家と社会 3 対外関係の変化 第1章 開国と維新 1 東アジア国際環境の変化と開国 2 政治秩序の崩壊 3 明治維新と革新政策 4 対外関係の変革と内乱の終結		○前近代の歴史について概観する。 ○開国に至るまでの流れと開国後の国際関係や国内の動きについて理解を深める。 ○開国をめぐる欧米列強の動向と幕府・諸藩の対応について理解を深める。	
【前期末】 第2章 近代国家の形成と発展 1 立憲政治をめざして 2 憲法の制定と議会の開設 3 東アジアの国際環境と条約改正問題 4 清国との戦い 5 藩閥・政党の対立と協力 6 ロシアとの戦い 7 日露戦後の国際関係と日本 第3章 産業化の推進と国民生活の変化 1 産業革命の進展 2 資本主義の確立とその特色 3 社会問題の発生 4 国民文化の形成 5 国民生活の変化		○明治新政府による「富国強兵」「殖産興業」政策の展開、自由民権運動と立憲制定に至る近代国家の形成過程について、西欧諸国の動向を踏まえて理解する。 ○日清・日露戦争がもたらした国内外への影響について、国際関係を踏まえながら、不平等条約の改正や国際的地位の向上を中心として理解を深める。 ○産業革命の達成と資本主義の確立、近代文化の形成について、社会の変化やそれに伴う諸問題に留意しながら理解を深める。	
【後期中間】 第4章 第一次世界大戦と大正デモクラシー 1 第一次世界大戦と日本の外交 2 デモクラシーの高まりと政党 3 国際協調と軍縮の進展 4 政党政治の時代 5 大戦中から戦後の経済と社会 6 都市化と市民文化 第5章 第二次世界大戦と日本 1 昭和恐慌 2 協調外交の行きづまり 3 満州事変から国際的孤立へ 4 軍部の政治的台頭 5 中国との戦い 6 第二次世界大戦と世界新秩序 7 太平洋戦争 8 日本の敗北		○第一次世界大戦をめぐる国際社会の変化と日本の動向について、政党政治の成立と大正デモクラシーの展開、大衆社会並びに大衆文化の形成を軸として理解を深める。 ○昭和恐慌の克服のための海外市場拡大と日中戦争との関わりについて、国際社会の動向に注目しながら、軍部の台頭や財閥の経済支配、寄生地主制を中心として侵略戦争の構造を理解させる。 ○第二次世界大戦をめぐる国際社会の動向を踏まえ、日本が太平洋戦争に突入し、敗戦へと至る過程を理解させる。	
【学年末】 第6章 占領下の日本 1 占領政策の展開 2 戦後民主主義の定着 3 政治・経済の再建 4 独立の回復 第7章 日本の自立と経済成長 1 55年体制の成立 2 安保体制下の日本 3 高度経済成長の光と影 4 経済大国 第8章 現代の世界と日本 1 冷戦の終り 2 国内政治の再編成 3 アジア・太平洋と日本 4 21世紀を迎えて		○戦後復興について、東西冷戦を背景として朝鮮戦争やサンフランシスコ平和条約、日米安全保障条約などの国際情勢と関連づけて理解を深める。 ○高度経済成長について、保守安定政権や日米安全保障体制を軸として理解を深め、石油危機後の経済大国へと至る過程についても考察させる。 ○冷戦終結後の国際情勢や55年体制の崩壊、バブル経済の崩壊、グローバル社会の展開、少子高齢化の進行などを踏まえ、今後の日本の進むべき道について考察する。	
評価方法		学習の方法	
○出席、授業への取り組み状況 ○定期考査 ○提出物(現代の日本史ノート)		○総論から各論への展開をはかることにより、歴史の全体像の把握が容易になるよう学習させる。 ○基本的な史料や個別の事例については、その意味や根拠を考察することで、単なる暗記にとどまることなく、科学的な視点から歴史を理解する能力を養う。	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
地歴	日本史B	2年普通科文系(4単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
我が国の歴史の展開を、世界史的視野にたつて総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色について認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。 ※『学習指導要領』の科目の目標と同一		詳説 日本史B(山川出版社) 最新日本史図表(第一学習社) 必携日本史用語集(実教出版) 新詳述日本史史料集(実教出版)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 原始・古代 日本文化のあけぼの 律令国家の形成</p> <p>【前期末】 原始・古代 平安朝廷の形成 貴族政治と国風文化</p> <p>【後期中間】 中世 中世社会の成立 武家社会の成長</p> <p>【学年末】 中世 武家社会の成長 近世 幕藩体制の確立 幕藩体制の展開</p>		<ul style="list-style-type: none"> 考古学的な発見をもとに、当時の日本人の社会の様子について理解する。 中国の影響を受け、律令制度を取り入れた日本が、どのようにして中央集権的な国家を形成したかを理解する。 律令制度の崩壊と、藤原北家による他氏排斥による摂関政治の展開、武士の成長について理解する。 武家政権が確立されていく流れと、その内容を理解する。 武家政権の構造と土地支配から鎌倉幕府の特色を理解し、武士の時代について考察する 建武の新政、南北朝の動乱、室町幕府成立の過程を理解する 下剋上の意味を理解し、現代の各地方の特徴がこの時代に由来すること多い事を気付かせる。 戦国大名の登場と、彼らの領国経営の方法・特色について理解する 幕藩体制の確立と諸制度の特色が、相互に関連していることを理解する。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> 出席、授業への取り組み状況 定期考査 授業ノートのまとめ方 小テスト、暗唱テストなどの取り組み状況 		<ul style="list-style-type: none"> 授業は配布したプリントと板書を中心に行う。プリントを通じて歴史の流れをつかむこと。板書は教科書の内容・プリントの理解を助けるためにまとめるものである事を意識して授業に出席すること。 板書をただ写すのではなく、授業の内容を復習するときに、授業内容を思い出させる手がかりとなるような言葉を自分でまとめる習慣を身につけること。 教科書をよく読むこと。考査前学習をする際に、配布されたプリントや問題集を解答するだけで満足せず、問題演習をした直後に教科書を読み込み、理解を深める活動をする。 歴史の流れをつかむことを重視すること。経済や政治などの分野だけで考えず、文化や社会の様子などの背景となるものも理解することが大事である。 暗記中心ではないが、基礎的な事項はきちんと確認しながら学習する。漢字で書けるようにする。 教科書の写真・史料を必ず確認すること。当時の社会を知る上での重要な手がかりである。資料を読み取りそこから分かることをまとめる力を身につける。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
地歴	日本史B	2年普通科・理系(3単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>○通史を中心に日本文化や地域史も含む基礎的な歴史的教養を身につけ、各界のリーダーとして活躍するに足る資質を養う。</p> <p>○大学受験等に対応し得る知識・考察力を養う。</p> <p>○世界史的視野に立った歴史的思考力を培い、公民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。</p>		<p>○教科書：改訂版 詳説日本史B(山川出版社)</p> <p>○副教材：最新日本史図表(第一学習社)</p> <p>○副教材：日本史学習ノート(山川出版社)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1 原始・古代</p> <p>(1)日本文化のあけぼの</p> <p>1)文化のはじまり</p> <p>2)農耕社会の成立</p> <p>3)古墳とヤマト政権</p> <p>(2)律令国家の形成</p> <p>1)飛鳥の朝廷</p> <p>2)律令国家の成立</p> <p>3)平城京の時代</p> <p>4)天平文化</p> <p>【前期末】</p> <p>5)平安初期の政治と文化</p> <p>(3)撰関政治と国風文化</p> <p>1)撰関政治</p> <p>2)国風文化</p> <p>3)荘園と武士</p> <p>2 中世</p> <p>(1)中世社会の成立</p> <p>1)院政と平氏の台頭</p> <p>2)鎌倉幕府の成立</p> <p>3)武士の社会</p> <p>4)蒙古来襲と幕府の衰退</p> <p>5)鎌倉文化</p> <p>【後期中間】</p> <p>(2)武家社会の成長</p> <p>1)室町幕府の成立</p> <p>2)幕府の衰退と庶民の台頭</p> <p>3)室町文化</p> <p>4)戦国大名の登場</p> <p>3 近世</p> <p>(1)幕藩体制の成立</p> <p>1)織豊政権</p> <p>2)桃山文化</p> <p>3)幕藩体制の成立</p> <p>(2)幕藩体制の展開</p> <p>1)幕政の安定</p> <p>【学年末】</p> <p>2)経済の発展</p> <p>3)元禄文化</p> <p>(3)幕藩体制の動揺</p> <p>1)幕政の改革</p> <p>2)幕府の衰退</p> <p>3)化政文化</p>		<p>○人類誕生と旧石器時代、縄文・弥生時代の社会や文化への理解を深め、日本人の形成過程について考察する。</p> <p>○弥生～古墳時代について、大陸の動向に着目しながら、地域統合の結果、古代前半期に位置づけ得るヤマト政権が形成されたことを理解する。</p> <p>○隋・唐など東アジアの周辺諸国の動向に着目しながら、推古朝、大化の改新、天武・持統朝などを画期とする律令国家の形成過程について理解を深める。</p> <p>○律令国家を古代後半期に位置づけ、律令体制や平城京造営、奈良時代の政治や社会等について理解を深める。</p> <p>○唐を中心とする東アジア世界の形成と国家仏教、国際色豊かな天平文化の成立、天智系皇統への交代と桓武・嵯峨朝を中心とする政治・文化等への理解を深める。</p> <p>○藤原北家の台頭と撰関政治の成立過程、弘仁・貞観文化や国風文化の背景について、律令制崩壊と王朝体制の成立、東アジア世界の激動、寄進地系荘園の成立と武士の発生など社会の変化等に着目して理解する。</p> <p>○院政から平氏政権の形成過程について、荘園公領制の確立や武士による在地領主権の強化、二大武士団の成長等に着目しながら、中世社会の成立として理解する。</p> <p>○幕府成立から執権政治確立へと至る武家政権について、武士の在地領主権確立と封建制の成立、公武二元支配、産業の発展と貨幣経済の展開、鎌倉新仏教を中心とする文化等に着目しながら理解を深める。</p> <p>○室町幕府の成立、南北朝の動乱と合一、倭寇の活動と日明貿易の開始、蝦夷ヶ島や琉球王国などについて東アジア諸国との交流を中心として理解させる。</p> <p>○応仁の乱を契機とする守護領国制から戦国大名の分国支配への転換、庶民の台頭と産業の発達、公武の文化融合や庶民、地方の文化について理解を深める。</p> <p>○世界史上の大航海時代と織豊政権下の諸政策を通じて、近世社会の成立と幕藩体制への継承を中心に理解する。</p> <p>○新興大名や都市豪商の台頭、南蛮文化の影響を背景とする桃山文化の性格、朝鮮出兵や日本人の海外発展などについて理解を深める。</p> <p>○国内諸制度の整備と文治政治への転換、鎖国体制下での四つの口を通じた対外交渉などについて理解させる。</p> <p>○産業の発展や都市の繁栄、町人の台頭と上方を中心とした元禄文化の成立について関連づけをはかる。</p> <p>○商品経済発展の一方、農民・町人層の分解など社会の構造変化による幕藩体制の動揺と幕政・藩政改革、幕府の衰退と雄藩の形成などについて理解を深める。</p> <p>○国学や洋学の発達、経政論の展開、新たな江戸の町人を中心とした化政文化の性格などについて理解する。</p>	
評価の観点		学習の方法	
<p>○出席、授業への取り組み状況</p> <p>○定期考査</p> <p>○実力テスト</p> <p>○提出物(『日本史学習ノート』、長期休業中課題など)</p>		<p>○総論から各論への展開をはかることにより、歴史の全体像の把握が容易になるよう学習させる。</p> <p>○基本的な史料や個別の事例については、その意味や根拠を考察することで、単なる暗記にとどまることなく、科学的な視点から歴史を理解する能力を養う。</p> <p>○大学入試センター試験や東京大学入試過去問題等について、調査研究を行った上で作成した授業プリントによって、受験上の知識として欠落がないように学習させる。</p> <p>○各單元ごとに『日本史研究ノート』[応用編]を課題として提出させ、学習内容の定着を図る。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
地歴	日本史B	3年普通科・文系(4単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>○通史を中心に日本文化や地域史も含む基礎的な教養を身につけ、各界のリーダーとして活躍するに足る資質を養う。</p> <p>○大学受験等に対応し得る知識・考察力を養う。</p> <p>○世界史的視野に立った歴史的思考力を培い、公民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。</p>		<p>○教科書：改訂版 詳説日本史B(山川出版社)</p> <p>○副教材：新詳日本史(浜島書店)</p> <p>○問題集：新日本史研究ノート(啓隆社)</p> <p>○授業プリント(作成)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>3 近世</p> <p>(2)幕藩体制の展開</p> <p>1)幕政の安定</p> <p>2)経済の発展</p> <p>3)元禄文化</p> <p>(3)幕藩体制の動揺</p> <p>1)幕政の改革</p> <p>2)幕府の衰退</p> <p>3)化政文化</p> <p>【前期末】</p> <p>4 近代・現代</p> <p>(1)近代国家の成立</p> <p>1)開国と幕末の動乱</p> <p>2)明治維新と富国強兵</p> <p>3)立憲国家の成立と日清戦争</p> <p>4)日露戦争と国際関係</p> <p>5)近代産業の発展</p> <p>6)近代文化の発達</p> <p>(2)近代日本とアジア</p> <p>1)第一次世界大戦と日本</p> <p>2)ワシントン体制</p> <p>3)市民文化</p> <p>【学年末】</p> <p>4)恐慌の時代</p> <p>5)軍部の台頭</p> <p>6)第二次世界大戦</p> <p>(3)占領下の日本</p> <p>1)占領と改革</p> <p>2)冷戦の開始と講和</p> <p>(4)高度成長の時代</p> <p>1)55年体制</p> <p>2)経済復興から高度経済成長へ</p> <p>(5)激動する世界と日本</p> <p>1)経済大国への道</p> <p>2)冷戦終結と日本社会の動揺</p> <p>大学入試センター試験直前演習</p>		<p>○国内諸制度の整備と文治政治への転換、鎖国体制下での四つの口を通じた対外交渉などについて理解させる。</p> <p>○産業の発展や都市の繁栄、町人の台頭と上方を中心とした元禄文化の成立について関連づけをはかる。</p> <p>○商品経済発展の一方、農民・町人層の分解など社会の構造変化による幕藩体制の動揺と幕政・藩政改革、幕府の衰退と雄藩の形成などについて理解を深める。</p> <p>○国学や洋学の発達、経政論の展開、新たな江戸の町人を中心とした化政文化の性格などについて理解する。</p> <p>○欧米列強の動向を背景として、日本が開国と貿易の開始によって国際社会の一員となり、尊王攘夷運動の挫折と倒幕運動を経て明治維新へと至る過程を理解する。</p> <p>○富国強兵の国是の下、殖産興業・文明開化政策や諸制度改革が政府主導で急激に実施された点を理解する。</p> <p>○自由民権運動を嚆矢とする立憲国家体制の成立過程を学び、近代国家の形成について理解を深める。</p> <p>○日清・日露戦争を経て、国際関係とともに産業革命進展による日本の資本主義成立過程、社会問題や労働運動の発生、近代文化などについて理解する。</p> <p>○第一次世界大戦前後の国際社会、労働者の増加や高等教育の拡充と大衆社会の成立などを背景とする政党政治や社会・労働運動、大衆文化の展開等を理解する。</p> <p>○軍部と結ぶ財閥、革新官僚層が恐慌への対策として中国などでの権益維持と大陸での市場拡大を推進して日中戦争を惹起し、三国同盟が対米戦争を通じて第二次世界大戦への参戦、終戦へと至った過程を理解する。</p> <p>○占領下の戦後民主化諸政策、サンフランシスコ平和条約の調印による独立達成、日米安保体制と冷戦構造への参入等について、東西対立をふまえて理解を深める。</p> <p>○朝鮮戦争の特需景気、神武景気をきっかけとする戦後復興から高度経済成長への転換、安定した保守政権の下、国民生活や価値観の変化についても理解を深める。</p> <p>○ドル・ショックを経て、石油危機など世界経済や国際政治の動向にも注目し、高度成長の終焉と安定成長、日本が経済大国へと成長する過程について理解する。</p> <p>○貿易摩擦やバブル経済の発生と崩壊、55年体制の崩壊、冷戦構造の解体と民族問題や核拡散など、新たな国際情勢の流動化についても理解を深める。</p> <p>○既習事項について、大学入試センター試験過去問を中心とする問題演習を行い、その理解の深化を図る。</p>	
評価の観点		学習の方法	
<p>○出席、授業への取り組み</p> <p>○定期考査</p> <p>○実力テスト</p> <p>○提出物(授業プリント、『日本史研究ノート』、長期休業中の課題など)</p>		<p>○総論から各論への展開をはかることにより、歴史の全体像の把握が容易になるよう学習させる。</p> <p>○基本的な史料や個別の事例については、その意味や根拠を考察することで、単なる暗記にとどまることなく、科学的な視点から歴史を理解する能力を養う。</p> <p>○大学入試センター試験や東京大学入試過去問題等について、調査研究を行った上で作成した授業プリントによって、受験上の知識として欠落がないように学習させる。</p> <p>○各学期ごとに『日本史研究ノート』並びに昨年度の定期考査問題を提出させ、学習内容の定着を図る。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
地歴	日本史B	3年普通科理系(3単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
我が国の歴史の展開を、世界史的視野にたつて総合的に考察させ、我が国の文化と伝統の特色について認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。 ※『学習指導要領』の科目の目標と同一		詳説 日本史B(山川出版社) 新詳日本史(浜島出版)	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】 近世 幕藩体制の展開 幕藩体制の動揺</p> <p>【前期末】 近世 幕藩体制の動揺 近代・現代 近代国家の成立 近代日本とアジア</p> <p>【後期中間】 近代・現代 近代日本とアジア 占領下の日本 高度経済成長 激動する世界と日本</p> <p>【学年末】 センター直前演習</p>		<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の職制、民衆統制を学習することで、中世から近世に書けての社会の変化を理解させる。 武断政治から文治政治への転換の理由を多面的に理解させる。 幕政改革の矛盾と欧米列強の接近、蘭学や国学など新しい学問の台頭による思想上の変化について理解する。 明治新政府の諸制度に着目し、政府の目的と近代日本の特色を理解する。 日清・日露戦争を通じて、日本が列強の中でどのような立場になり得たかを理解し、世界史的意義を考察 満州事変から日中戦争への過程を多面的に考察する。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> 出席、授業への取り組み状況 定期考査 提出物(課題レポート等) 		<ul style="list-style-type: none"> 歴史の流れをつかむことを重視する。経済や政治などの分野だけで考えず、文化や社会の様子などの背景となるものも理解することが大事である。 暗記中心ではないが、基礎的な事項はきちんと確認しながら学習する。 限られた時間の中で基本的な知識を定着させるには授業で完全理解に努めるだけでなく、期末考査にむけての学習を通じて復習をしっかりと行い、土日や長期休業中に既習範囲の復習をすることが必要。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
地歴	地理A	2年普通科理系(2単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 		<ul style="list-style-type: none"> 教科書：高等学校 新地理A (帝国書院) 地図帳：新詳高等地図 (帝国書院) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間考査まで】</p> <p>1 私たちの地球をみつめる</p> <p>(1)球面上の世界と世界構成</p> <p>(2)結びつく現代世界</p> <p>(3)多様さを増す人間行動と現代世界</p> <p>【前期末考査まで】</p> <p>2 さまざまな地域の生活と環境</p> <p>(1)人間を取り巻く環境</p> <p>(2)世界の諸地域の生活・文化</p> <p>【後期中間考査まで】</p> <p>3 地球的に広がる課題</p> <p>(1)人口・食糧問題</p> <p>(2)都市・居住問題</p> <p>【学年末考査まで】</p> <p>(3)資源・エネルギー問題</p> <p>(4)環境問題</p>		<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地域性や動向を作業的学習も取り入れながらとらえるとともに、地理的スキルを身につける。 世界諸地域の生活・文化を地理的環境や民族性と関連づけて追求し、生活・文化を地理的に考察する視点や方法を身につけるとともに、異文化を理解し尊重する意義について理解する。 環境、資源・エネルギー、人口、食料および居住・都市問題を地球のおよび地域的視野から追求し、地球的課題は地域を超えた課題であるとともに地域によって現れ方が異なっていることを理解させ、それらの課題の解決に当たっては各国の取り組みとともに国際協力が必要であることを理解する。 	
評価方法		学習の方法	
授業への出席および取組状況 定期考査		<ul style="list-style-type: none"> 何よりも授業に集中すること。 地理で学ぶ内容は、いま現在世界各地で起きている事件、紛争、自然災害等と密接に関連している。日頃から新聞やニュース番組等に接するよう努めてもらいたい。 	

教科名	科目名	開 講 期 (単位数)	必 選 別
地歴	地理 B	2年普通科：文系(4単位), 理系(3単位) 2年理数科(2単位)	普通科：選択 理数科：必修
到達目標 (ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> 現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界に対する地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 		<ul style="list-style-type: none"> 教科書：詳説新地理 B (二宮書店) 地図帳：新詳高等地図 (帝国書院) 資料集：最新地理図表 (第一学習社) サブノート：新地理要点ノート (啓隆社) 	
学習内容 (学習時期)		学習到達目標 (ねらい)	
<p>【前期中間考査まで】</p> <p>地形 大地形 小地形 気候 気候要素</p> <p>【前期末考査まで】</p> <p>気候 ケッペンの気候区分 各気候区の特徴 陸水と海洋 農牧業 農牧業の成立条件 自給的農牧業</p> <p>【後期中間考査まで】</p> <p>農牧業 商業的農牧業 企業的農牧業 林業 水産業</p> <p>【学年末考査まで】</p> <p>鉱工業 エネルギー資源と鉱山資源 近代工業の立地 主な工業地域 都市・村落 現代世界の地誌的考察 国家規模の地域 州・大陸規模の地域 現代世界の諸課題 環境・エネルギー問題 人口・食糧問題 民族・領土問題</p>		<p>系統地理分野 (地形～都市・村落)</p> <p>自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化に関する地域性について世界的視野から考察し、現代世界が多様な地域から構成されていること、それらの地域には類似性や空間的な規則性などがみられること、分布からいくつかのまとまりでとらえたり、いくつかの地域に区分したりできることを理解し、併せて現代世界を系統地理的にとらえる視点や方法を身につける。</p> <p>地誌的分野 (現代世界の地誌的考察)</p> <p>地域の規模に応じて地域性を多面的・多角的に考察し、現代世界を構成する各地域は多様な特色をもっていることを理解するとともに、世界諸地域を規模に応じて地誌的にとらえる視点や方法を身につける。</p> <p>現代世界の諸課題</p> <p>現代の世界や日本が取り組む諸課題について、広い視野から地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を深めるとともに、地理的に考察する意義や有用性を認識できるようになる。</p>	
評価方法		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> 授業への出席状況 日常的な課題の提出と取り組み状況 定期考査 <p>※評価は定期考査の結果を主、各種課題への取り組み状況を従として行うが、時期によって課題の分量等が異なることから、詳細については各考査期において授業担当者から説明する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> 授業第一主義。何よりも授業に集中すること。 地理で学ぶ内容は、現在世界各地で起きている自然災害、事件、紛争等と密接に関連している。日頃から社会事象に注意を向けるよう努めてもらいたい。 地理の学習と他教科・科目の学習の最大の違いは常に地図を用いることにある。例えば、地名を知っているだけでは意味がない。必ず地図帳でその位置の確認を行うこと。 	

教科名	科目名	開講期（単位数）	必選別
地歴	地理B	3年普通科（文系4単位・理系3単位） 3年理数科（2単位）	普通科選択 理数科必修
到達目標（ねらい）		使用教科書・教材	
<p>・現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培う。</p>		<p>・教科書 詳説新地理B（二宮書店） ・地図 新詳高等地図初訂版（帝国書院） ・資料集 最新地理図表改訂版（第一学習社） ・統計 データブック（二宮書店）</p>	
学習内容（学習時期）		学習到達目標（ねらい）	
<p>【前期中間考査まで】 村落・都市 地図の活用 小縮尺図 大縮尺図（地形図）</p> <p>【前期末考査まで】 人口分布の特徴と人口問題 交通・通信 産業の国際化・情報化</p> <p>【後期中間考査まで】 人種・民族 国家と国家群 地域開発 地誌</p> <p>【後期中間考査以降】 マーク演習（センター試験対策） 論述演習（国公立大学二次対策）</p>		<p>系統地理分野（都市・村落～地域開発） 自然環境、資源、産業、都市・村落、生活文化に関する地域性について世界的視野から考察し、現代世界が多様な地域から構成されていること、それらの地域には類似性や空間的な規則性などがみられること、分布からいくつかのまとまりでとらえたり、いくつかの地域に区分したりできることを理解し、併せて現代世界を系統地理的にとらえる視点や方法を身につける。</p> <p>地誌的分野 地域性を多面的・多角的に考察し、現代世界を構成する各地域は多様な特色をもっていることを理解するとともに、世界諸地域を規模に応じて地誌的にとらえる視点を身につける。</p> <p>後期中間考査以降は、演習を通じて大学受験に必要な知識の定着を図る。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・定期考査 →出題については、授業の他に課題等での内容を含み、関係する内容について他単元との関連でも出題される。詳細については各考査期において授業担当者から説明する。</p> <p>・授業への取り組み</p> <p>・小テスト、課題提出状況</p>		<p>・基本的知識の蓄積に加え、地図利用・統計解析力の向上を意識して学習する。</p> <p>・地理的な見方・考え方は、原則的な方法を習得して演繹的にとらえるだけでなく、時事的な世界の動きや個々の民族・地域性を重視することも大切である。常に外部情報に目を向ける。</p> <p>・自分自身で白地図に必要な項目を入れる工夫をするなど、羅列・断片的な知識ではなく、全体像を意識してまとめる。</p> <p>・問題演習では、解答や解法だけを確認するのではなく、問題や図に戻って俯瞰する。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
公民	現代社会 (政経分野)	1年普通科(2単位)	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<p>・中学校社会科との関連を図りながら、経済の仕組みを学ぶことで、現代の経済活動における社会的責任について考えさせる。</p> <p>・現代社会における諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。</p>		<p>・教科書：高等学校 新現代社会 改訂版 (清水書院)</p> <p>・資料集：新政治・経済資料 2011 (実教出版)</p> <p>・問題集：「道」2011 (岩手県高等学校教育研究会 公民部会)</p>	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1.</p> <p>(1)経済のしくみと経済循環</p> <p>(2)市場機構と独占・寡占</p> <p>(3)二つの経済体制 (資本主義・社会主義)</p> <p>(4)現代の企業</p> <p>【前期末】</p> <p>(5)金融の役割と金融政策</p> <p>(6)政府の経済的役割(財政政策)</p> <p>(7)租税・国債</p> <p>(8)国富・国民所得</p> <p>【後期中間】</p> <p>(9)経済成長・景気変動</p> <p>(10)戦後日本経済の発展① (特需～石油危機)</p> <p>(11)日本経済の発展② (バブル～現在)</p> <p>(12)雇用・労働問題</p> <p>【学年末】</p> <p>(13)社会保障制度</p> <p>(14)外国為替・国際通貨制度</p> <p>(15)貿易・国際収支</p> <p>(16)地域的経済統合</p>		<p>・経済社会の変容と現代経済の仕組みを正しく理解し、経済の諸課題に対する解決策について考えることができる。</p> <p>・企業の分類とそれぞれの特徴を理解したうえで社会における企業の社会的責任について考察できる。</p> <p>・資金の循環と金融機関の働きに加え、財政の仕組みと働き、租税の意義と役割について正しく理解することができる。</p> <p>・我が国の戦後経済と国民生活の変化、現代経済の現状と諸課題について理解できる。</p> <p>・経済活動の在り方と福祉の向上との関連について考察することができる。</p> <p>・日本経済の国際化及び世界経済の動向について理解する。</p> <p>・貿易の意義と国際収支の現状、仕組みを学ぶことで、国際経済における国際協調の必要性和日本の役割について考察できる。</p>	
評価方法		学習の方法	
<p>・定期考査得点</p> <p>・提出物(ノート、課題レポート等)</p> <p>・出席、授業への取り組み状況</p>		<p>・授業プリントを用いながら、専門用語を確実に覚え、かつ資料集を十分に活用して、詳細な内容の理解に努めること。暗記のみでは受験に対応できない。</p> <p>なお、ノートのメモ欄には、各自で必要と思われる説明や解説図などを適宜書き込むこと。</p> <p>・問題集「道」や授業中の問題演習を通じて学習内容の定着に努め、試験への対応力を身につけること。</p> <p>・日頃から新聞・ニュースに目を通すことを心がけ、時事問題についての知識を得ておくこと。</p>	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
公民	現代社会(倫理)	1年普通科 2単位	必修
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> 「倫理」についての理解力・思考力・読解力の養成、並びに基礎的知識の定着。 「人間とは何か」「人間としていかに生きるべきか」という課題の探求と、生徒自身の世界観・人間観の形成。 		<ul style="list-style-type: none"> 教科書 高等学校 新現代社会 改訂版 (清水書院) 資料集 詳解 倫理資料 新訂版 (実教出版) 問題集 「道」 (岩手県高等学校教育研究会公民部会) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1 人生における哲学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然哲学 ・ソクラテス ・プラトン ・アリストテレス ・ヘレニズム思想 <p>【前期末】</p> <p>2 人生における宗教</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ユダヤ教 ・イエスの思想 ・バラモン教 ・仏教 <p>【後期中間】</p> <p>3 人生の知恵</p> <ul style="list-style-type: none"> ・孔子と儒家の思想 ・儒教の展開 ・道家の思想 <p>【学年末】</p> <p>4 日本の風土と外来思想の受容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏教の移入 ・仏教の土着化 		<ul style="list-style-type: none"> ・ギリシャ人によって形成された哲学と、その根底にある理性主義の本質について理解することができる。 ・ソクラテス、プラトン、アリストテレスの3大哲学者の思想内容を理解することができる。 ・ギリシャ思想の特色を理性の尊重、調和と秩序を中心に理解し、現代社会に与えた影響について考察することができる。 ・キリスト教がユダヤ教の中から生まれてくることを、当時の諸国家や諸民族の歴史的背景を踏まえて考え、理解することができる。 ・世界宗教としてのキリスト教について、その特色を理解することができる。 ・ブッダの思想から仏教のその後の展開について理解することができる。 ・思想の源流としての古代中国における諸子百家について、その思想内容を、それぞれの出現の歴史的・社会的背景とともに理解することができる。 ・聖徳太子の「和」の精神と、その背景にある仏教信仰にもとづく太子の人間観を考察することができる。 ・仏教の受容と変遷について、鎮護国家思想・密教・末法思想などを中心に理解することができる。 ・鎌倉時代における新しい仏教宗派の出現とその教えについて理解することができる。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・出席、授業への取り組み状況 ・定期考査 ・提出物(課題レポート・ノート等) 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、毎時間配られる授業プリント(穴埋め形式)を中心に展開し、重要語句やポイントを捉える。 ・ノートは板書内容をうつすのではなく、家庭学習等で自分なりに授業内容をまとめ、考査前に提出する。 ・読解力を養成するために、資料集の通読を徹底する。 ・年末に読書課題を計画している。指定された課題図書から一冊選び、2000字程度で内容を要約する。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
公民	政治・経済	3年普通科・文系(2単位)	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> ・民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させる。 ・現代社会における諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・教科書：高等学校 改訂版 政治・経済 (第一学習社) ・資料集：新政治・経済資料 (実教出版) ・用語集：政治・経済 最新第4版 (清水書院) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1. 民主政治の基本原則と日本国憲法</p> <p>(1) 民主政治の発達と原理</p> <p>(2) 議会制民主主義と政治の本質</p> <p>(3) 日本国憲法の基本原則</p> <p>(4) 基本的人権の保障と新しい人権</p> <p>【前期末】</p> <p>(5) 日本の政治制度 国会・内閣・裁判所</p> <p>(6) 地方自治と住民の権利</p> <p>2. 現代の国際政治と日本</p> <p>(1) 国際政治の動向</p> <p>【後期中間】</p> <p>(2) 冷戦時代の国際政治</p> <p>(3) 安全保障と日本の防衛</p> <p>3. 国際経済と日本</p> <p>(1) 為替・国際通貨制度</p> <p>(2) 貿易と国際収支</p> <p>(3) 社会保障と労働問題</p> <p>【学年末】</p> <p>マーク問題演習(センター試験対策)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・議会制民主主義の本質を学ぶことでそれらを尊重し擁護する意義を理解する。 ・日本国憲法に基づく、基本的人権の尊重と日本の政治制度全般について、基本的知識を身に付ける。 ・議会制民主主義について、単なる知識として覚えるのではなく、地方自治等の場で実践できる能力として総合的に身に付ける。 ・国際政治の動向や国際連合をはじめとする国際機構の役割と諸活動を理解できる。 ・国際紛争の諸要因、望ましい解決策について考察できるとともに、我が国の安全保障の問題について理解し、国際平和に寄与する日本の役割を理解する。 ・現代の日本経済の国際化及び世界経済の動向について理解する。 経済生活の変化、現代経済の機能について理解できる。 ・演習を通じて、大学入試センター受験に必要な知識を身につける。 	
評価方法		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査得点 ・提出物(ノート、課題レポート等) ・出席、授業への取り組み状況 		<ul style="list-style-type: none"> ・授業プリントを活用して専門用語を確実に身につけること。なお、適宜配布される補充プリントも含め、ファイルするなどの整理を怠らないこと。 ・詳細な内容は資料集を、最新のデータや時事的な内容などは教科書を用いて学習し、理解に努めること。 ・単元終了ごとにマーク問題の演習を行うことにより学習内容を確実に身につけること。 ・授業に加え、課外等のあらゆる機会をとらえて、1年次に学んだ経済分野の復習を怠らないこと。 ・日頃から意識して新聞・ニュースに目を通すことで時事問題や小論文、面接に備えること。 	

教科名	科目名	開講期(単位数)	必選別
公民	倫理	3年普通科・文系 2単位	選択
到達目標(ねらい)		使用教科書・教材	
<ul style="list-style-type: none"> 「倫理」についての理解力・思考力・読解力の養成、並びに基礎的知識の定着。 「人間とは何か」「人間としていかに生きるべきか」という課題の探求と、生徒自身の世界観・人間観の形成。 		<ul style="list-style-type: none"> 教科書 高等学校 新倫理 改訂版 (清水書院) 資料集 詳解 倫理資料 (実教出版) 用語集 倫理 最新版 (清水書院) 問題集 4ステージ演習ノート (数研出版) 問題集 倫理10分間テスト (山川出版社) 	
学習内容(学習時期)		学習到達目標(ねらい)	
<p>【前期中間】</p> <p>1 青年期の課題と自己形成</p> <p>2 現代社会を生きる倫理(西洋近現代思想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ルネサンスとヒューマニズム 宗教改革 帰納法、演繹法 社会契約説 <p>【前期末】</p> <ul style="list-style-type: none"> カント、ヘーゲル、ベンサム プラグマティズム 社会主義 キルケゴール、ヤスパース ニーチェ、ハイデッガー ガンディ、キング牧師等 <p>【後期中間】</p> <p>3 日本の風土と外来思想の受容</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸儒学 町人思想、農民思想 国学、心学 キリスト教の受容 近代日本哲学の成立 <p>4 現代の諸課題と倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命倫理、環境倫理 情報社会 異文化理解 <p>【学年末】</p> <p>5 問題演習</p>		<ul style="list-style-type: none"> 青年期の特徴を心理学的な定義などを通して知り、自分たちが置かれている状況を客観的に理解することができる。 現代社会のものの見方・考え方が近代の人間性尊重の精神にもとづいていることを理解し、その本質について、近代社会の成立を中心に考察することができる。 カントやヘーゲルなどの思想から、人間にとっての自由や幸福を、個人と全体との関わりを通して考察することができる。 19世紀のヨーロッパにおける社会状況を把握し、「人間疎外」の意味と実存主義の成立過程について理解することができる。 中国で生まれた儒教が外来思想として移入され、その後江戸時代に儒学として日本化されたことを理解することができる。 儒学が盛んであった近世において、そうした儒学を批判する形で国学が成立したという図式を理解することができる。 われわれが暮らしていく中で起こる様々な現代の諸問題について考察することができる。 過去問を中心に問題演習をすることで総復習をし、基礎的・応用的学力を身につけることができる。 	
評価の観点		学習の方法	
<ul style="list-style-type: none"> 出席、授業への取り組み状況 定期考査 小テスト 提出物(課題・ノート等) 		<ul style="list-style-type: none"> 授業は、毎時間配られる授業プリント(穴埋め形式)を中心に展開し、重要語句やポイントを捉える。 ノートは板書内容をうつすのではなく、家庭学習等で自分なりに授業内容をまとめ、考査前に提出する。 授業の最初に、一問一答の小テストを行う。内容は問題集「倫理10分間テスト」から毎回8問出題。 「4ステージ演習ノート」を活用し、年内中に4度の演習課題を行う予定。 読解力を養成するために、教科書の通読を徹底する。 	